

第1回国立公園等整備事業の適切な執行に関する懇談会 議事概要

■日 時：平成26年2月6日（木） 14：30～17：00

■会 場：経済産業省別館 共用1107会議室

●委員発言 ○事務局発言 △参考人発言

【国立公園等整備事業（調査・設計業務）の適正な執行に向けた論点】

- 発注側で業務の仕様、予算価格等の大枠が決められ、その後こういう技術を使えば安くなるか、もっといいものができるという技術提案が出てくるということになるか。
- 例えば、トイレの設計の場合、何㎡のトイレという条件は発注者側が示すが、どういう環境配慮ができるかなどの技術提案を出してもらおう。
- 発注業務に定常的に申し込まれる会社は大体何社ぐらいか。
- 個別の業者名までチェックできていないので、はっきりわからない。
- 発注する価格帯はどのくらいか。平均は400～500万ぐらいか。
- 1000万円以上は25件で、何百万単位のものも多くを占める。
- 技術競争の点で参加者が少ないのが気になる。地方性の縛りは強いのか。
- 小さいレベルで県単位、大きいレベルでは地方単位ぐらいの設定が多い。業者登録にABCというランクがあり、入札は原則1つ、最大2つのランクから選ぶことになる。
- 評定点は、おおむね妥当ということか。
- 70点半ばあたりが標準点と考えているので、おおむね妥当と考えている。
- 総合評価の拡大は問題ないと思うが、発注者側の業務量は大丈夫か。
- 事務手続きが増えるので、事務負担も勘案して考える必要があると思っている。優秀な業者が受けてもらった方が後の手間は楽になるということもある。

【関係者からのヒアリング】

- △参加者が多くなると提案書作成のコストと予定価格のバランスが課題となると思う。
- △自然を相手にするので、個別に対応しなければならない。また、調査、計画、設計から維持管理まで含めての計画や、ハードとソフトが一体となった計画など、総合力が必要で社会系や文化系の能力も求められる。そうした技術をどう評価するかが課題である。
- △技術者の育成が重要だが、業務量が減って技術者が離れていく事態に直面している。
- △技術力の評価を含む低入札対策は重要だが、業務の個別性が高く、想定業務量が発注者側と合わない場合もある。難しい問題だが、設計価格自体の問題も検討いただければ。
- 国土交通省と環境省に応募する業者は違うのか。業者の母集団の位置がわかるとよい。
- △通常いずれも参加しているが、得意、不得意があるのでどちらかに偏ることはある。
- 簡易型プロポーザル方式とあるが、簡易型でないものも必要ということで良いか。
- △必ずしも量の多いプロポーザル方式の否定ではなく、きめ細かく、ということ。
- 品質の確保の視点から改善の余地があると書かれているが代表的なことはなにか。

△資料にある業務成績評定、CPD 取得状況などのことを指しているが、ほかにも低価格入札の問題や積算基準の具体化などいろいろ改善の余地があると考えている。

●技術力のみならず社会性のある人が重要という意見であったが、人材はたくさんいるか。

△技術士の環境部門で年間 20 数人を輩出している。業務を通じて人材を育成しているが、人材は限られるというのが実感。業務量と価格の問題で技術者が遠ざかることもある。

●資格の数を評価点に入れるということだが、資格の取得状況はわかるのか。

△環境省関連の業界ではまだそこまで把握していない。

○業務成績評定、CPD 取得状況など、の「など」について、具体的にあれば教えてほしい。

△国交省では業務表彰の有無があり、環境省でもやっていただければありがたいが、環境省では件数の問題があるので、現実的ではないかもしれない。

【意見交換】

●品確法やその基本方針は、全省庁に関するものだが、他省庁も同様に進んでいるのか。

○省庁によってばらつきがあり、国交省でも整備局単位でもかなりばらつきがある。

●論点整理については、今のところはこういう方向かと思う。

●レベルの高い業者だと楽だということだが、発注後のチェックは頻繁に行っているのか。

○業務途中の打合せや問題が起きたときの協議など担当職員を決めて対応している。レベルの高い業者を選定すると、成果の修正の手間が減るという利点はある。

●国立公園の整備の予算が H12 ピーク時の半分になっている。国民に対する認知度をあげて、資産として維持しながらいかに活用していくかという基本的な戦略がいると感じた。そのための人材育成が重要で、業務を通じて人材が育成されるしくみが必要と思った。

●管理運営業務は別とのことだが、調査、計画、設計、管理の一連の流れを一気通貫でやらないといけない。提案させるべき内容として、管理運営まで留意したものが必要。

●環境省は価格競争の割合が高く、技術提案を進めていくという方向はよい。安かろう悪かろうにならないよう技術を評価していく必要がある。技術者の評価を高めていくという点で CPD は重要である。入札参加者の不足の問題については、発注の時期や十分な工期が応札業者の数に影響するのではないか。

●技術者個人の資格も大事だが企業評価も大事。ISO は参加者が減るかもしれないが、目に見える企業のシステムを評価に入れることも大事なのではないか。

●総合評価落札方式の拡大について、どこまで拡大するか共有化しておく必要がある。実績の評価は、新たな企業の参画を締め出すことにもなる。高い能力を持っているが実績値を持っていないと参画できないというところへの配慮が必要である。

○基本的には技術的に簡単な分野から徐々に参画してもらうのが良いと考えている。発注は、なるべく総合評価にするよう努力するという方向性と考えているが、発注にかかる業務が増え、発注が遅れることがないよう柔軟に対応する必要がある。

○CPD は重要と思っているが、地方の業務が多いので、地方の業者がどれくらい CPD に対応できるか、土木系や造園系など何の単位を採用するかも検討する必要がある。